

## 連携・協働のプラットフォームを構想する広島県立生涯学習センターの研修事業の試み

○清國祐二（香川大学・せとうちネットワーク）

○新田 憲章（広島県立生涯学習センター）

葛原生子（広島県立生涯学習センター）

志々田まなみ（広島経済大学・せとうちネットワーク）

山川 肖美（広島修道大学・せとうちネットワーク）

### 発表の概要

本発表は、これからの生涯学習振興行政のあり方のひとつとして、広島県立生涯学習センターの取組を提起することを目的としている。

いまや既存の組織や団体が独自のミッションのもとで、単体としてミッションの遂行に取り組み、有効な成果を生み出すには限界がきている。ミッションに掲げられた「解決すべき問題や課題」はさまざまな背景や要因と絡み合い、解決には多くの難題が立ちほだかり、従来の取組では対応しきれなくなってきた。しかしながら、既存の組織や団体が積み上げてきたノウハウやその成果は、それぞれの「強み」として有効な資源であることに疑念の余地はない。課題解決に向けてそれらの資源を有機的に結びつけることこそ、生涯学習振興行政に求められている役割であるといえよう。このことは「協働」が重要な行政課題であることと軌を一にする。

こうした「つなぐ」機能を生涯学習振興行政が積極的に担おうとする場合、どうやらそれは場の提供やネットワークの形成だけでは成就しないことが過去の経験から明かとなってきた。組織や団体の固有性や独立性を尊重しつつ、連携や協力を促進する機能を果たすために、コーディネーター（社会教育主事等）の存在が欠かせない。こうしたコーディネーターが配置されている生涯学習センターの機能は、今後ますます強化される必要がある。

一方、NPO法の成立後、各地で多くのNPO法人が認証されたが、法人自体の新陳代謝は鈍く、組織の順調な発展を遂げているところは多いとはいえない。そもそも強い課題意識を共有する人たちが構成するボランティア団体として船出しているNPO法人が多く、凝集性が強固であるが故に排他的であったり、そう見られたりする。内部には見えない組織的課題を克服するためには、客観的な立場で支援できる「中間支援組織」の存在が鍵を握る。地域の生涯学習振興の役割を担う生涯学習センターは、まさに市町教育行政の中間支援組織であり、将来的には市町行政やNPO等も含めた中間支援組織となって、地域の各組織・団体で展開される生涯学習活動を支えることが期待される。

そこで、これら機能を担う生涯学習センターの姿を、本発表では、「プラットフォーム」と呼ぶこととした。そして、このプラットフォームの構想について、ふたつの機能から分析を試みる。

ひとつは「人材養成・育成」の機能である。現行の事業（初級研修・上級研修、その他）は「生涯学習振興・社会教育職員」を対象としているが、将来的には民間の人材も視野に入れることを想定している。現状では一足飛びに実現することは困難が予想されるため、実績を積んだ後の課題という位置づけである。一方、行政機関は定年制と人事異動に基づき、良きにつけ悪きにつけ組織（部署）は新陳代謝を行う。そこですぐに求められるのは初任者研修や、一定の経験を積んだ後に求められる経年研修（専門研修）である。いずれも重要であるが、今回の発表では、後者の経年研修である「上級研修」に絞って発表することとした。成人教育において、経験は有効な学習資源であると考えられている。しかし、時として経験は新たなチャレンジを阻む障害ともなりえる。顔の見える小さな社会にいればいるほど、とりわけ「失敗イメージ」はぬぐい去れず、経験したが故に踏み込めなくなってしまうことは多々ある。これを乗り越えるためには、経験を振り返り、新しい風にあたり、新たな自分と出会うことが求められる。狭い職場を出て、志の高い仲間と関わり、最新の理論や優れた実践に触れることなどがいい機会となる。こうしたねらいのもとで実施されている上級研修の成果と今後の課題について検討する。

もうひとつは、コーディネート機能である。先述の通り、今後の生涯学習を振興するためには、市町教育委員会や一般行政、研究者グループ、民間団体（NPO等）が自由に乗り入れ、交流や乗り換え（協働・コラボレーション）できる環境を整備していかなければならない。県立生涯学習センターがこうした場となるためには、センターに配置されている社会教育主事のコーディネーションやファシリテーションの機能がよりいっそう充実されなければならない。生涯学習振興行政のめざす方向は、最終的には人々の豊かな学びを保障することで豊かな社会をつくることであろう。一方、生涯学習の範囲は遠大で「人の生き方」にまで及ぶことを考慮すると、教育行政の範疇で閉ざされる類のものではないことは明白である。教育行政がメインであるにせよ、多様な組織や団体がゆるやかなネットワークを形成し、自由な情報交換・共有の場を有し、新しい価値や実践を共創することが望まれる。本発表のプラットフォームというタームには、多様な組織や団体が、多角的、多面的な関係を築き、長期的な視野にたって生涯学習振興に携われる共創機能を発揮する場が含意されている。その実現に向けた、連携・協力を促進するコーディネート機能のあり方についても検討を行う。

## 発表の構成

はじめに

1. 広島県立生涯学習センターの研修事業の試み
2. 生涯学習振興・社会教育関係職員等研修（上級研修）の概要と成果
3. 連携・協働のプラットフォームの構想

まとめ